



衣川台住民の皆さま、6月に実施致しました今年度第1回目の防災訓練へのご協力ありがとうございました。安否確認方法が、新安否確認システムに移行してから3年になりました。遅くなりましたが、訓練を振り返りたいと思います。年々伸びている黄色い安全確認旗の掲示率に対して、共助活動が今一つの印象があり、引き続き今後の課題といたします。よろしくお願いいたします。

特集：第1回防災訓練の振り返り

今年度は、6月に行事が多かったため、最終日曜の29日に実施いたしました。当日は、晴天で訓練開始時には25℃に達していました。参加された皆さま、暑い中、ご協力ありがとうございました。

第1回の防災訓練においては、大きなテーマとして、昨年度同様に、

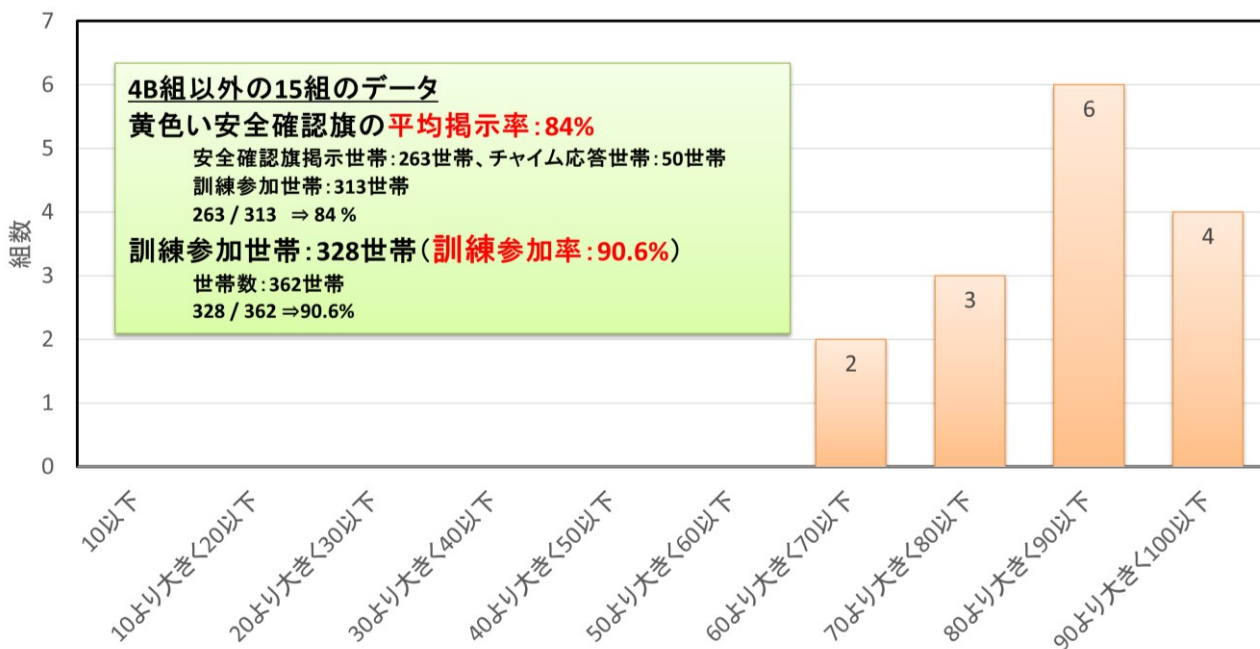
共助単位でお互いの安全を確かめましょう！

さらに、その中でも、

道路に出て、ご近所の訓練への参加を確認しましょう

というサブテーマを掲げていました。ご近所同士で話されている姿も散見されたようですが、全体的には、道路に出て向こう三軒両隣の安否を確認しあっている姿はほとんど見られなかったという印象です。

一方、黄色い安全確認旗の掲示については、毎回少しずつ改善が見られています。図で示されている通り、平均掲示率が80%を上回り、4B組を除く全ての組で60%を超えていました。組長さんを含む各組で安否集計に



協力いただいた方々へのアンケートにおいても、安全確認旗の掲示については、かなり定着してきているという声がありました。自主防災部ではさらなる掲示率のアップを目指しています。掲示されていない世帯は、毎回固定されている傾向がありますので、来年度の訓練時には是非参加いただきたいと思います。

上記の通り、組長様、前年度組長様および自主防災部員の皆さま、アンケートへのご協力ありがとうございました。

た。以下のような種々のご意見をいただきました。今後の自主防災活動に活かしていきたいと考えます。
(昨年度と同様の意見が多かったという印象です。)

- 安否確認システムがかなり定着してきたと実感した。
- 当日の訓練を忘れている世帯が多いように感じた。
- 一部の方は、向こう三軒両隣の安否確認をしてくださっていた。
- 前年度組長、防災部の組長支援チームの支援で速く安否確認ができた。

安否確認訓練後は、大津北消防署と堅田看護専門学校の協力のもと、救出・救護訓練を実施しました。今回は、訓練案内にて、一般住民の方への参加も呼びかけましたが、残念ながらほとんど参加されませんでした。毎年、同様の訓練の繰り返しになっているかもしれませんが、有事の際に役立てるには繰り返しが重要ですので、是非とも参加していただきたいと考えております。

写真で見る防災訓練



防災訓練の開始です！



こんな姿をもっとみたいです。



倒壊物からの救出訓練
手を挟まないように！



応急処置
三角巾、斜辺はどっち？

第2回防災訓練のご案内

甚大な地震災害により避難指示が出たという想定で、衣川台南公園に一時避難し、「通学路」ルートを使った集団避難訓練を行い、その後、仰木の里学区自主防災会の総合防災訓練に合流します。積極的なご参加をお願いいたします。

日時：11月9日（日）9:00～12:00 集合場所：衣川台南公園

コラム

共助の重要性がわかるような文章を過去の被災を例にして、ChatGPT に作成してもらいました。

共助の力が命を守る — 過去の震災から学ぶ地域の絆

はじめに

災害が発生したとき、人の命や生活を守るために重要となるのが「共助(きょうじょ)」です。共助とは、地域の住民同士が助け合うことを指します。地震や水害などの災害発生直後には、行政の支援がすぐには届かないことが多いため、隣近所の助け合いが被害を大きく左右することがあります。

ここでは、過去の大地震で共助が発揮された地域と、そうでなかった地域の例を紹介しながら、私たちが学べるべき教訓を考えます。

阪神・淡路大震災(1995 年)の教訓

6434 人が亡くなった阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋の下敷きになった方々の救助のうち、8 割以上が近所の住民や家族の手によるものでした(消防庁・内閣府調べ)。

特に神戸市長田区のある地域では、日頃から町内会で顔の見える関係が築かれており、地震発生直後に自然と助け合いが始まりました。ブロックごとに救助活動が行われ、消火用バケツリレーやけが人の搬送など、行政が来る前に被害拡大を防いだとされています。

一方で、同じ神戸市内でも住民同士のつながりが薄い地域では、高齢者や単身者が取り残され、安否確認が遅れたケースもありました。

東日本大震災(2011 年)での違い

宮城県石巻市のある町内では、日頃から地域で防災訓練を行っており、高台への避難誘導を自主的に実施していたことで多くの命が助かりました。高齢者をおんぶして避難した中学生、声かけを続けた主婦の方など、「共助」の連鎖が大津波から地域を守ったのです。

反対に、避難指示があっても周囲と連携が取れず、ためらった結果として命を落とした事例もありました。とくに「ここは大丈夫だろう」と思って動かなかったケースで、周囲の声かけがないと判断が遅れがちになるという教訓が残っています。

共助が機能する地域とは

共助がうまく働いた地域には、共通する特徴があります。

- 顔の見える関係があること
- 誰がどこに住んでいるか把握されていること
- 日頃から声かけや訓練があること

特別な準備がなくても、「声をかける」「様子を見る」「助けを呼ぶ」ことだけで、命が救われることがあります。

おわりに

災害時の支援はすぐに来ないことも多く、まず頼れるのは身近な人の助けです。

共助は一朝一夕にはできませんが、日頃のあいさつや防災行事への参加など、小さな積み重ねが大きな力になります。

「向こう三軒両隣」——その意識が、地域の命を守る力になります。

住宅用火災警報器は交換されましたか？

私の家では、どこからか急にピーピー警報が鳴りだし、やっとのことで警報器が鳴っているとわかり、全数交換しました。半年に1度の点検が推奨されているようです。急に鳴り出すと驚くので、10年たったら交換しましょう。

住宅用火災警報器は、 10年を目安に交換を おすすめします！

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。
10年を目安に交換しましょう。

New Old



【設置時期を調べるには】 火災警報器を設置したときに記入した「設置年月」、または、本体に記載されている「製造年」を確認してください。

新しい火災警報器に交換したら！

本体の側面などに、油性ペンで「設置年月」を記入しましょう。



これから10年間、
また安心を見守るよ！



記入例
設置年月 2014 年 9 月

●取扱説明書は、大切に保管してください。

定期的に作動確認し、音を聞きましょう！

ボタンを押す、またはひもを引いて作動確認をします。
●定期的に家族で火災時の警報音を確認しましょう。

正常な場合は？

正常をお知らせするメッセージまたは火災警報音が鳴ります。

ビビ、
ビービービー



ビービービー
火事です



注) 警報音はメーカーや製品により異なります。

音が鳴らない場合は？

電池がきちんとセットされているか、ご確認ください。

...



しーん



●それでも鳴らない場合は、「電池切れ」か「機器本体の故障」です。取扱説明書をご覧ください。

❗
ご注意ください

- 火災警報器の種類によって、細かい注意点が異なります。製品に付属している取扱説明書を必ずご覧ください。
- お手入れや作動確認は、高所での作業となり、転倒や落下などの危険があります。安定した足場を確保して、作業を行ってください。
- 捨てる際は、本体と電池を別にして捨てましょう。お住まいの各自治体が定める条例に従って廃棄してください。

大津市の
“住宅用火災警報器”の
サイトも参考にしね！

交換作業は、高所作業の場合が多いので、ご高齢の場合は、無理をせずご家族やお知り合いに頼みましょう。
また交換作業だけでなく、新規設置にも「たすか〜仰木の里」のご利用を検討いただいても良いと考えます。
(連絡先: ☎080-1445-1551 平日のみ 9:00~17:00)

以上